

新年度予算ピックアップ

新年度予算等を審査する今回の定例会では活発な議論が交わされました。ここでは、総括質疑における議論の一部をピックアップして紹介します。詳細はインターネットでも配信しています。



子育て支援について

一層の充実を図るため、体制の強化を図るとともに「子育てするなら砂川」と言われるようなまちづくりに取組んでいきます。

問 子育て支援施策の具体的内容は。

答 医療費無料化、小中学校給食の無償化、保育所におけるICTシステムの導入、保育所・幼稚園等の副食費無償化等です。

問 子育て支援施策に要する財源は。

答 新たに取組んでいる子育て支援関連予算は、総額約8,700万円と算定され、一部の事業では国や道の補助金ですが、その大部分は一般財源です。

問 保育所・幼稚園における副食費無償化等の詳細は。

答 保育所における3～5歳児までの副食費の無償化、0～2歳児の給食費相当額の減額及び市内外幼稚園及び認可外保育施設に在籍している児童の保護者に対する副食費相当額の助成を実施し、保護者の負担を軽減します。



JR砂川駅のバリアフリー化について

JR北海道と早期実現に向け、今後も課題を整理し、協議を続けます。

問 これまでの協議状況と今後の見通しは。

答 平成23年度からJR北海道との協議を行っています。北海道新幹線札幌延伸工事の影響もあり、協議できる環境となっておらず、実現の目途が立っていない。砂川市がかかる費用を負担する条件を提示しても現在、JR北海道として事業に着手できる状況にないとの見解を得ています。

問 JR北海道への要望活動について。

答 昨年、飯澤市長が北海道庁を訪れ、バリアフリー化への協力要請を行いました。今後いかに早く事業を着手できるのか、この点に主眼を置いて要望活動を続けていきます。

問 自由通路から真下のホームにエレベーターを下せないか。

答 砂川市としても自由通路の途中からエレベーターを下すことについて相当詳細に研究しています。追加する設備が少なく、これまで検討してきた数ある案の中では一番シンプルな方法と捉えています。ただ、JR北海道の技術者不足で、設計・積算ができなく前に進まないという状況が続いています。



JR砂川駅

義務教育学校の建設について

基本設計・実施設計に基づき、令和6年度から2か年の継続事業として建設工事を実施します。

問 実施設計の完成時期と基本設計からの変更箇所は。

答 実施設計委託業務の完成期限が令和6年6月3日までであることから、校舎建築工事については工事発注用の設計は完成しています。基本設計からの変更点は、1階の普通教室について当初12教室としましたが、削減し10教室としました。2階ではテラスからの屋外への出入りは行わないこととしました。また、音楽室前の廊下を楽器庫に変更しました。

問 令和6年度の継続費としての財源内訳と事業費の範囲は。

答 継続費に計上しているものは義務教育学校校舎の建設等であり、令和7年度以降発注分のグラウンド工事等は含んでいません。財源内訳は、補助金として国の公立学校施設整備費負担金等で、補助金額は2年間で約25億6,000万円を見込んでいます。起債は過疎対策事業債であり、2年間で約53億2,000万円を見込んでいます。

問 今後のスケジュールについて。

答 令和6年度～7年度に校舎本体工事と校舎北側の外構工事を実施した後、令和7年度には陸上グラウンド工事を行う予定です。令和8年度に校舎解体工事及び校舎西側の駐車場工事を行い、令和9年度に校舎跡地に野球グラウンドを造成する計画です。



建設予定地